

大和ハウス工業株式会社 中部工場

〒437-0012 静岡県袋井市国本841 / TEL 0538-42-2211 / Hグレード / REAL4 2014年4月導入



BIM化へ向けて5工場でREAL4導入。効率化・時間短縮を実現!!

全国9つの生産拠点がある大和ハウス工業株式会社。その中でも5工場にREAL4が導入されており、特に在来鉄骨とシステム建築の商品を生産している中部工場ではREAL4の活用が進んでいます。同社理事で中部工場の田中彰二工場長、高松浩一技術主幹・副工場長、建築生産管理課の菊地道昭課長、建築生産管理課の松下八大主任、そして中部工場支部協会の糸田伸一幹事、さらに本社生産企画部建築生産管理グループの坪倉健治主任技術者に、株式会社データロジックの坂下課長と共に話をうかがいました。

REAL4の導入は2014年4月ですね?導入の経緯などを教えてください。

菊地課長:現在、大和ハウス工業の5工場でREAL4を導入しているのですが、先行して導入したのが中部工場でした。以前は他社のCADを使っていました。当社には多くの協力会社があり、その多くで以前からS/Fライナーが使われていて、良いCADだと聞いていました。そうしたこともあり、REAL4は将来性を考えるといいのではないかと。当工場の物件はどちらかというと中規模クラスの物件が多く、その点からも適しているというのが決め手

の一つでした。

他社のCADと比較検討されたのですか?

菊地課長:本部の方で数社のCADを検討しました。数年前から全社的にBIM化を考えていく中で、どの会社のCADが最も連携がいいか、どの会社の協力体制が最も良いかなども考えた上で最終的に選びました。

糸田幹事:以前使っていた専用CADと比べると、REAL4は思い通りの入力がほぼ可能になると感じました。以前は、専用で書いた後、汎用を使って部品をかなり付け加えなければならなかったのが、REAL4であれば汎用を使う

割合を大幅に減らすことができる。その後のことまで考えると、REAL4の魅力は大きいと思いました。

導入後、実際に専用CADと汎用CADを使い分ける割合は変わりましたか?

糸田幹事:以前は専用5:汎用5くらいだったのが、導入後は8:2、物件によって9:1、10:0に。トータルで見れば、かなりの時間短縮につながっています。

REAL4のメリットの一つにリアルタイムで3Dを見られることがあります。

糸田幹事:入力して瞬時に3Dで確認できるのは、とてもいいですね。鉄骨をまだ分かっていない若いスタッフに教育するときに便利です。また、現場で建つ状態を工場ですぐに確認できることは、間違いないものを作る上でとても役立っています。

他にもREAL4の導入で便利になったと感じていることがありますか?

菊地課長:設計仕様が決まってから加工、出荷までの時間が短く、納期が迫る中で生産計画を立てなければなりません。そうした中、REAL4で材料のサイズ・重さなどさまざまなデータがすぐに出てくるので、生産計画の精度を上げることに役立っています。

図面の作成だけにとどまらず、さまざまな管理資料を活かせることがREAL4の魅力ということですね。他にメリットを感じていることがありますか?

糸田幹事:物件が大型化しているのでも、複数人で分散して入力し、後で合算する機能も役立っています。

菊地課長:多くの協力会社がREAL4を使っているのでも、一つの建屋を複数の会社で分割して行っても情報を共有できるのはメリットですね。REAL4のシェア率が高く、多くの協力会社に導入されていると、データを共有できるのでメリットとして大きいです。

坂下課長:ありがとうございます。REAL4のシェア率は今、一般社団法人全国鉄骨工業協会の構成会社さんの約7割強になっています。

REAL4の機能で、これは役立っているというのがありますか?

糸田幹事:特殊部品の機能を使うと、データとしてその後も活用できるので、汎用ではなく、特殊部品の機能を使って入力しています。また、数千の製品がある中から抽出して「これは変更があります」「保留があります」など、後々の対応などに沿って細かい条件を組み合わせるとさまざまなグループに分類できる機能も大変助かっています。

坂下課長:REAL4のデータはNC(数値制御)で一次加工機に使っていただけますか?

菊地課長:はい。加工効率を上げようと5工場を進めています。

BIM化も考えてのREAL4導入とのことですが、BIM化の理由を教えてください。

菊地課長:BIM化の取り組みは、合理化・コストダウン化



糸田伸一幹事

のためだけではありません。今後も長く企業活動を続け、営業からアフターサービスまで行っていくには、膨大なデータを維持管理していく必要があります。でも、今のままのやり方では困難です。特に住宅は部品点数が非常に多く、事業用建築の方が先にBIM化を進めやすいといえます。事業用建築も超高層が増え、設備、機能もどんどん追加されています。災害のことを考えても、それらのデータを永年保管していかなければなりません。膨大なデータの維持管理には大きな投資が必要であり、コスト効果なども評価しながらBIM化を進めているところです。

今後への思いなどを教えてください。

糸田幹事:これからのいいものを早く、コスト的にも要求に応えられるものと思っています。同時に一人一人の負担を減らし、作業時間をさらに減らせるようにしたいですね。

菊地課長:それに関して言えばCAD操作の時間の比率を分析すると、入力・変更対応・待ち時間の中で、変更対応・待ち時間の割合が高く、働き方改革を進める上で極力減らしたかったのが待ち時間でした。REAL4導入後は、待ち時間が大きく改善されたといえます。

今後のシステム開発への期待を。

菊地課長:REAL4が持っているさまざまなデータを、今後の管理までいかにもっと活かしていけるか。そこに一番期待しています。REAL4の機能を十分に使い切っている人はまだ少ないのではないのでしょうか。取扱説明書がなくても誰でも簡単に使えるCADの開発を期待します。

糸田幹事:そうですね。もっと直感的に分かるCADを。パラメータの充実はまだ期待できそうだと感じています。よろしくお願いします!



工場外観